

## 第58回中学生海の絵画コンクール

審査員 穴吹 哲二郎 (示現会 会員)  
綿引 昭子 (新世紀美術協会 会員)

### 講 評

コロナ禍が終わるどころか世界を覆いつくし、美術館が閉められあらゆる事が出来なくなり、集うことで生まれていた人々の力が奪われていきます。そんな中で、今年も海の絵画コンクールの審査の日がやってきました。作品は集まっているのだろうかと不安をかかえながら、審査会場に案内されました。途中、九州海事広報協会の方から、今年は去年の倍の作品が寄せられ、応募校も去年の倍の学校から応募をいただきましたとのお話を聞き安心致しました。そして、審査会場で私達が目にした、整然と並べられた作品の数々に不安は一変しました。そのすごさに圧倒されて、感動で胸が熱くなりました。 コロナ禍でずっと努力してきたことが台無しになった人もいるかも知れません。しかし、皆さんはひた向きに努力して、素晴らしい作品に挑戦されました。本当にすごい！ 偉い！ と思います。透明感漂う色彩で風景を詩情豊かに描いている作品は感動です。

厳しい審査の結果、金賞1名、銀賞3名、銅賞6名、佳作30名、佳作の中には、特別支援学校の生徒さん1名が入りました。カラフルな赤と青のお魚さんが、今にも踊りそうですね。優秀校には、佐世保市立日宇中学校に決定致しました。3年連続の受賞、大変おめでとうございます。

そして、今回の出品作品で感じました事は、海の生きものたちとの心あたたまる作品も多く見られました。これも、コロナ禍の影響なのでしょうか？ 自分ならではの色で自分の絵として、完成させていることが素晴らしいと思いました。今回惜しくも賞を逃された多くの皆さんも、コロナに負けず試練を乗り越えて、自分の絵を描き続けて下さい。心から期待しています。

私達も初心に帰って頑張ります。ありがとうございました。

審査員 綿引昭子 (新世紀美術協会会員)